

ひばり保育園運営規程

(施設の名称等)

第1条 社会福祉法人親和福祉会が設置する保育所の名称及び所在地は、次のとおりとする。

(1) 名称 ひばり保育園

(2) 所在地 鹿児島県鹿屋市串良町細山田5295番地1

(施設の目的)

第2条 ひばり保育園（以下「当園」という。）は、特定教育・保育施設の適切な運営を確保するために、人員及び管理運営に関する事項を定め、当園を利用する小学校就学前の子ども（以下「利用子ども」という。）に対し、適正な特定教育・保育を提供することを目的とする。

(運営の方針)

第3条 当園は、良質な水準かつ適切な内容の特定教育・保育の提供を行うことにより、全ての子どもが健やかに成長するための環境が等しく確保されることを目指す。

2 当園は、利用子どもの意思及び人格を尊重して、常に利用子どもの立場に立って、特定教育・保育を提供するよう努める。

3 当園は、地域及び家庭との結び付きを重視した運営を行い、都道府県、市町村、小学校、他の特定教育・保育施設等、地域子ども・子育て支援事業を行う者、他の児童福祉施設その他の学校又は保健医療サービス若しくは福祉サービスを提供する者との密接な連携に努める。

4 当園は、利用子どもの人権の擁護、虐待の防止等のため、責任者を設置する等必要な体制の整備を行うとともに、従業員に対し、研修を実施する等の措置を講ずるよう努める。

(提供する特定教育・保育の内容)

第4条 当園は、子ども・子育て支援法、その他関係法令等を遵守し、保育所保育指針に基づき、利用子どもの心身の状況等に応じて、特定教育・保育を提供する。

(職員の職種、員数及び職務の内容)

第5条 当園が特定教育・保育を提供するに当たり、職員の職種、員数及び職務内容は次のとおりとする。ただし、職員の配置については、児童福祉施設最低基準および鹿児島県児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を定める条例で定める配置基準を下回らない人数とする。なお、員数は入所人数により変動することがある。

(1) 施設長（園長） 1人

施設長は、特定教育・保育の質の向上、職員の資質の向上に取り組むとともに、職員の管理及び業務の管理を一元的に行う。

(2) 副園長 1人、主任保育士 1人

副園長は、施設長の職務である職員の管理及び業務の管理等を補佐する。

主任保育士は、副園長と共に施設長を補佐し、計画の立案や利用子どもの保護者からの育児相談、地域の子育て支援活動及び保育内容について他の職員を統括する。

また、小学校との連携・接続の担当を行う。

(3) 保育士 10人以上

保育士は、保育計画及び保育課程の立案とその計画、課程に基づきすべての子どもが安定した生活を送り、充実した活動ができるよう保育を行う。

また、年長児担当保育士は、小学校との連携・接続の担当を行う。

(4) 調理員 2人以上

調理員は、献立に基づく調理業務及び食育に関する活動を行う。

(5) 事務職員・用務員 1人以上

事務職員・用務員は、当園の事務及び雑務を行う。他の職種と兼務する場合もある。

（特定教育・保育を行う日）

第6条 当園の特定教育・保育を提供する日は、月曜日から土曜日までとする。

2 当園は、前項の規定に関わらず、次に掲げる事項に当てはまる場合は休業日とする。

(1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(2) 年始休日（1月2日及び1月3日）

(3) 年末休日（12月29日から12月31日）

(4) 年度末日及びその前日（ただし休日は含まない）

3 当園は、前2項の規定に関わらず、特定教育・保育の提供を行う上で必要がある又はやむを得ない事情があるときは、あらかじめ利用子どもの保護者に情報提供を

行い、前項に規定する休業日に特定教育・保育を提供することがある。

- 4 当園は、非常災害その他急迫の事情があるときは、特定教育・保育の提供を行わないことがある。

(特定教育・保育の提供を行う時間)

第7条 特定教育・保育を提供する時間は、次のとおりとする。

- (1) 保育標準時間認定に係る保育時間(11時間)は、午前7時00分から午後6時00分の範囲内で、保育標準時間認定を受けた支給認定保護者が保育を必要とする時間とする。ただし、当園が定める保育時間(11時間)以外の時間帯において、やむを得ない事情により保育が必要な場合は、当園が定める保育時間(11時間)から開所時間の間に延長保育を提供する。
- (2) 保育短時間認定に係る保育時間(8時間)は、午前8時30分から午後4時30分の範囲内で、保育標準時間認定を受けた支給認定保護者が保育を必要とする時間とする。ただし、当園が定める保育時間(8時間)以外の時間帯において、やむを得ない事情により保育が必要な場合は、当園が定める開所時間から保育時間(11時間)の間に延長保育を提供する。

(利用者負担その他の費用等)

第8条 利用子どもの保護者は、保護者の居住する市町村が定める利用者負担をその居住する市町村に支払うものとする。

- 2 当園は、鹿屋市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例第13条第4項の規定により、別表1に掲げる実費を徴収する。

(利用定員)

第9条 利用定員は、次のとおりとする。

学年	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
2号	—	—	—	10人	10人	11人	31人
3号	9人	10人	10人	—	—	—	29人
合計	9人	10人	10人	10人	10人	11人	60人

(利用の開始、終了に関する事項及び利用に当たっての留意事項)

第10条 当園は、市が行った利用調整により当園の利用が決定されたときかつ保育の実施の委託を受けたときは、これに応じる。

2 特定教育・保育の提供の開始に際しては、あらかじめ、重要事項を記載した書面により、利用子どもの保護者とその内容を確認する。

3 当園の利用子どもが次のいずれかに該当するときは、特定教育・保育の提供を終了するものとする。

(1) 子ども・子育て支援法第19条第2号及び第3号に規定する小学校就学前子どもの区分に該当しなくなったとき。

(2) 利用子どもの保護者から当園の利用に係る取消しの申出があったとき。

(3) 市が当園の利用継続が不可能であると認めたとき。

(4) その他、利用継続において重大な支障又は困難が生じたとき。

(緊急時等における対応方法)

第11条 当園の職員においては、特定教育・保育の提供を行っている利用子どもに体調の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに当該利用子どもの保護者又は医療機関への連絡を行う等の必要な措置を講ずる。

(非常災害対策)

第12条 当園は、非常災害に関する具体的な計画を立て、防火管理者を定め、非常災害時の関係機関への通報及び連携体制を整備し、それらを定期的に職員に周知するとともに、定期的な避難及び救出その他必要な訓練を実施する。

(虐待の防止のための措置)

第13条 当園は、利用子どもの人権の擁護、虐待の防止等のため、責任者を設置する等必要な体制の整備を行うとともに、その従業者に対し、研修を実施する等の措置を講ずるよう努める。

(秘密保持)

第14条 当園の職員及び職員であった者は、正当な理由がなく、その業務上知り得

た利用子ども又はその家族の秘密を漏らしてはならない。

- 2 当園は、小学校、他の特定教育・保育施設等、地域子ども・子育て支援事業を行う者その他の機関に対して、利用子どもに関する情報を提供する際には、あらかじめ文書により利用子どもの保護者の同意を得る。ただし、特段の理由がある場合もしくは別に定めのある場合は除く。

（苦情解決）

- 第15条 当園は、その提供した特定教育・保育に関する苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受付けるための窓口を設置する等の必要な措置を講じる。
- 2 当園は、前項の苦情を受付けた場合には、当該苦情の内容等を記録する。
 - 3 当園は、市からの求めがあった場合は、市が行う調査に協力するとともに、市から指導又は助言を受けたときは、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。
 - 4 当園は、市からの求めがあった場合は、前項の改善の内容を市に報告する。

（記録の整備）

- 第16条 当園は、特定教育・保育の提供に関する次に掲げる記録を整備し、その完了の日から5年間保存する。
- （1）特定教育・保育の提供に当たっての計画
 - （2）特定教育・保育に係る必要な事項の提供の記録
 - （3）鹿屋市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例第19条の規定する市への通知に係る記録
 - （4）苦情の内容等の記録
 - （5）事故の状況及び事故に際して採った処置についての記録

- 附則
1. この規程は平成27年4月1日から施行する。
 2. この規程は平成29年1月1日から施行する。
 3. この規程は令和元年10月1日から施行する。

別表 1（特定教育・保育の提供に要する実費に係る利用者負担）

項目	内容、負担を求める理由、目的	金額
2号認定子どもにかかる給食費	食事の提供に要する費用を徴収 (主食費 570 円、副食費 5,130 円)	5, 7 0 0 円
半袖体操服 上衣	体育的活動及び遠足や運動会等の行事で着用	5, 7 2 0 円
半袖体操服 下衣		2, 9 1 5 円
長袖体操服 上衣	体育的活動及び遠足や運動会等の行事で着用	5, 8 3 0 円
長袖体操服 下衣		3, 8 5 0 円
制服	生活習慣の学習（ボタンのかけはずし、たたむ、しまう） 文化的行事及び式典での着用	8, 8 0 0 円
遊び着	冬期、活動中の防寒のため	2, 4 0 0 円
帽子	体育的活動及び遠足や運動会、戸外遊び時に着用	M 9 9 0 円
		L 1, 1 7 7 円
帽子（乳児用）	体育的活動及び遠足や運動会、戸外遊び時に着用	1, 0 8 9 円
ランドセル	出し入れや安全面等に工夫されており、入所児童が登降園時に必要な物品を持ち運ぶため(2号認定)	5, 5 0 0 円
ナイロンバッグ	着替えや荷物を運ぶ（3号認定）	6 4 0 円
行事費	遠足や園外活動などで要した費用	実費徴収

【2号・3号認定児童の延長保育にかかる利用者負担】

保育標準時間認定を受けた場合は、午後6時00分から午後6時30分の時間帯において延長保育を利用できる。

短時間認定を受けた場合は、当園の開所時間のうち短時間区分（午前8時30分から午後4時30分）以外の時間帯において、延長保育を利用することができる。

利用料は、月額1, 0 0 0 円／30分もしくは1回1 0 0 円／30分となる。

月利用は、前月末日までに申し出た場合に限る。